

女川町民生委員児童委員協議会

(平成 25 年 4 月 19 日掲載記事)

(1) 女川町の被災状況等

女川町は人口 7,777 人 (2012 年 12 月現在)、石巻市に隣接し、太平洋沿岸に位置する日本有数の漁港です。また、女川原子力発電所が立地することでも知られています。

女川町は、東日本大震災により町の約 7 割が壊滅的な被害を受けました。

約 900 名の方がたの尊い命が失われ、女川町民児協においても委員 31 名のうち 3 名が犠牲となりました。

一時は町内に最大 25 か所の避難所があり、委員も 7 割が被災したため、民児協全体での活動は中止を余儀なくされ、それぞれの委員が自ら可能な範囲で活動を行なってきました。

(2) 現在までの活動状況

平成 23 年 11 月に仮設住宅が全戸完成したことに伴い、民児協活動も再開し、現在は月 1 回の定例会を第 1 金曜日に開催しています。事務局のある役場庁舎も被災したため、固定した会議室の確保が困難になり、夏の天気の良い日には青空の下、屋外で開催したこともありました。

担当地域を失った委員がほとんどであり、担当地域を再編し、新たに設けられた仮設住宅地域等への担当も配置しました。

震災前のコミュニティが失われたため、まずは新しく担当となった委員を認知してもらうための訪問活動に多くの時間を要しました。訪問してもなかなか会うことができなかつたり、将来の生活への不安等から委員の訪問を拒否されたりという困難も多くありましたが、地道な活動を続け、1 年半を経過した今では、多くの住民にも新しい担当委員が浸透し、日々見守り活動や相談活動を続けています。

また、町役場が主体となっていて行なっている被災者支援事業の「地域支え合い体制づくり事業」によって、「女川町こころとからだとくらしの相談センター」が設置され、そこに配置されている「こころとからだ専門員」と連携しながら町内 8 つのエリアの見守り、訪問活動を行なっています。

(3) 「地域アソビリレーション事業」との連携など

また、町が行なう介護予防事業としての「地域アソビリレーション事業」も平成 23 年 9 月から再開されています。

血圧測定や健康づくり体操など、介護予防に努めることを目的としています

が、仮設住宅地域における新たなコミュニティの場としての機能も期待できる
ところですが、しかしながら不安や心の疲れから参加しない地域住民も多くいま
す。委員はそういった方々に参加への働きかけを行ない、自らも積極的に参加
し、事業との連携を図っています。

時間の経過とともに仮設住宅地域においてもコミュニティが形成されつつあ
り、地域単位での行事等も開催されるようになりました。委員も行事に参加し
ながら、地域住民との懇談を行ない、積極的にコミュニティづくりの推進を図
っていきたいと考えています。

(4) 終わりに

まちの瓦礫等はほとんどなくなり、これから本格的な復興をめざすこととな
りますが、地域住民の不安は消えることはありません。民生委員・児童委員と
しては、そんな住民の話を聞き、寄り添い、自立に向けた支援を長期的に続け
ていくことが必要と考えています。

終わりにあたり、全国の民生委員・児童委員の皆様からたくさんのご支援、
ご協力をいただいたことに対し、心から感謝を申し上げます。